

**社会技術研究開発事業における令和7年度新規研究開発領域
「ケアが根づく社会システム」の設置および募集開始について
～少子高齢化社会を生き抜くために
自然に支え合う「ケア」が行きわたった社会の構築を目指して～**

JST（理事長 橋本 和仁）は、社会技術研究開発センター（RISTEX）が推進する社会技術研究開発事業において、ケアが根づく社会システム研究開発領域を新規に設定し、その領域総括を東京都立大学 西村 ユミ 教授に決定しました。本領域の設置期間は令和7年度から令和13年度までとします。

<新規研究開発領域について>

令和7年には団塊の世代が全て75歳以上の後期高齢者になり、その数は全人口の約18パーセントに上ります。また、2030年代には若年人口の急減が見込まれており、日本においては人口減少・少子高齢化が加速しています。

これらによる社会問題に対して、RISTEXではより広い観点から見直しを図るための取り組みを進める必要があると考え、人びとの生活の基盤として、互いの暮らしを支え合える自発的・機能的なコミュニティや、自身の外にある環境（自然環境を含む）と互恵的に作用できるインフラの実現により、平時のみならず災害時にもしなやかに生き抜くことができる社会の構築を目指す新規研究開発領域を設定しました。

本領域では「人は『ケアし、ケアされる』弱い存在である」という相互依存的人間観に基づき、介護・育児などに限らず、自然に「他者や環境を気にかける」ことから生まれる行為や、その行為が立ち現れ得る状態を広く「ケア」と捉え、その価値を科学的に見だし、ケアを社会の現場で実践する活動を対象とした、異分野連携・総合知によらなければ解決し難い研究開発プロジェクトを支援します。

本領域のポイント

- 加速する少子高齢化社会を生き抜くため、「ケア」をキーワードに自然に助け合いが促される社会の構築を目指す。
- 介護・育児に限らず、例えば災害発生時の相互扶助を始めとした多様な支え合いなど、「他者を気にかける、共にある」態度から発せられる行為を「ケア」として捉える。
- 誰もがケアを受ける立場になり得るという視点に立ち、分野や立場の異なる人びとの協働により互いの暮らしを支え合うコミュニティやインフラの実現・社会実装に向けた研究開発を推進する。

<研究開発提案の募集について>

本領域の研究開発提案募集は、今後複数年にわたり実施する予定です。運営責任者である領域総括がアドバイザーなどの協力を得て、提案の募集、選考並びに採択後の研究開発マネジメントなど、領域目標の達成に向けた取り組みを推進します。

本年度募集期間：令和7年4月9日（水）～6月4日（水）正午

詳細は、別紙および下記ウェブサイトを参照してください。

URL https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/proposal_2025.html

<社会技術研究開発事業について>

社会技術研究開発事業は、顕在化している社会問題の解決や将来起こり得る社会問題への対処などを通して、新たな社会的・公共的価値の創出を目指す事業です。社会問題に関係するさまざまな関与者と研究者が協働するためのネットワークを構築し、公募により研究開発プロジェクトを選定し、自然科学と人文・社会科学の知識を活用した研究開発を推進します。

<添付資料>

別紙：令和7年度新規研究開発領域「ケアが根づく社会システム」募集概要

<お問い合わせ先>

長田 直樹（ナガタ ナオキ）

科学技術振興機構 社会技術研究開発センター 企画運営室

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

Tel : 03-5214-0133 Fax : 03-5214-0140

E-mail : [boshu-care\[at\]jst.go.jp](mailto:boshu-care@jst.go.jp)

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

令和7年度新規研究開発領域「ケアが根づく社会システム」 募集概要

1. 研究開発領域の目標

現在、少子高齢化や単身世帯増加などを背景として、介護・育児にかかる負担の増大や、それらを社会として支える制度が機能不全に陥り得る状況にあります。介護・育児などの質的向上あるいは効率化のための取り組みなどが推進されているものの、介護・育児・家事などの活動の担い手が一部の人びとに偏り、また時としてそれに適切な価値が与えられていません。さらに、個人の能力や、自立した強い個人を求める価値観が重視され、他者への依存に批判的な目が向けられる風潮などから、「他者に関心を向けること」や、「共にあること」そのものの重要性を認識することが困難になりつつある現状においては、他者を頼ることに思い至れずに生きづらさが加速してしまうことが懸念されます。

介護・育児・家事に限らず、見守り・人助け・教育・まちづくり・地域活動など、「自然に他者や環境を気にかけることから生まれる多様な行為、またはその行為が立ち現れ得る状態（以下、「ケア」という）」は、その担い手から受け手へ一方的になされるものではありません。ケアの担い手と受け手双方にとって望ましいケアがなされた場合には、それを通じてケアの担い手もケアの受け手からケアされている実感が得られます。ケアの担い手自身の身体が無自覚・受動的に動かされる側面もあります。それゆえ、ケアは「人は『ケアし、ケアされる』弱い存在である」ということを想起させ、ケア当事者の生きがいを喚起するものであるといえます。さらには、他者や自身へのケアに加え、昨今激甚化する自然災害に応じた生活環境やインフラの維持管理など、人間を取り巻く環境に対する意識やその意識に基づく行動も、ケアの1つであるといえます。人びとが思わず手を差し伸べるケアの本質的な価値や意義が科学的に解き明かされ、それを実際の暮らしの現場に実装された結果、生活において多様なつながりが生まれ、「共にある」という、ケアが根づく社会の実現に結びつくことが期待されます。

そこで「私たち人間は、互いにケアし、ケアされることが必要な弱い存在である」という相互依存的な観点から、ケアが社会に根づいていくための研究開発活動を推進します。

「私たちが生きるために必要なケアとその価値の可視化」および「可視化されたケアの価値に基づく社会システム構築の実践」を本領域の研究開発の柱とし、「互いを自然に気にかけるながら助け合えるコミュニティ形成や、人びとが環境と互恵的に関わり合えるインフラなどの生活基盤の自発的な実証が複数地域で始まっていること」を本領域の達成目標とします。人口減少・少子高齢化が加速する中での人びとの生活の基盤として、互いの暮らしを支え合える自発的・機能的なコミュニティや、自身の外にある環境（自然環境を含む）と互恵的に作用できるインフラの実現により、平時のみならず災害時にもしなやかに生き抜くことができる社会の実現を目指します。

2. 募集期間

令和7年4月9日（水）～6月4日（水）正午

3. 研究開発期間・規模

研究開発期間：最長4年6ヵ月

研究開発費：1年当たり上限2,300万円程度（直接経費）

4. 研究開発対象

本領域では、「ケアとその価値の可視化および実践」を対象とします。「可視化」とは、ケアがなされている現場を分析することにより、ケアとその価値を見えるようにする研究開発に限られません。歴史・社会・芸術・文化・教育などの観点から、人間にとってのケアの価値を再定義しながらケアのあるべき姿を解明する研究開発や、そのようなケアが根づいた社会システムを構築する研究開発も「可視化」の対象に含めます。また「実践」とは、見いだされたケアやその価値が人びとに浸透していくためのモデルなどを構築し、それを実社会の現場に導入し、検証・改善を行うことを指します。

本領域で求める研究開発プロジェクトは、単一の研究分野にとどまる体制、あるいは、各分野の研究者が分業して取り組む体制では推進が困難であるため、分野や立場の異なる方々が協業して取り組む体制で実施することを必須要件とします。これまで顧みられることが少なかったケアの当事者（特にケアの受け手）や、ケアに関わるそのほかのステークホルダー（政策立案者・実践者・運営団体・実践活動に関心を有する一般市民など）が研究開発に携わるプロセス（参加型デザイン）を含めた研究開発を実施していただくことも求めます。

従って、研究開発プロジェクトは、以下の研究開発要素①②の両方の要素を実施するものとします。ケアにおける事象を把握し、ケアの担い手・ケアの受け手それぞれの置かれたさまざまな背景を踏まえ、ケアが根づく社会のあるべき姿を問いながら、研究開発を実施していただきます。

① ケアとその価値の可視化

可視化されにくいケアとその価値を、ケアがなされている現場の当事者並びにその現場の背景をつぶさに観察・分析する研究開発（研究開発要素①－1：ケア当事者などの分析によるケアとその価値の可視化）、または、歴史・社会・芸術・文化・教育など、「人間としての営み」という広範な視点から分析する研究開発（研究開発要素①－2：歴史・社会・芸術・文化・教育などの視点からのケアとその価値の可視化）により明らかにします。

② 可視化されたケアの価値に基づく社会システムの実践

研究開発要素①で可視化されたケアの価値を踏まえた、相互依存的な人間観に基づいた社会システムの見直しの方向性や改善策を実社会の現場で実践し、検証・改善を行います（PoC: Proof of Concept）。これに加え、ワークショップ・住民対話などの機会を通じて、研究開発プロジェクトの成果がもたらすケアが根づく社会のあり方について問いながら、住民を始めステークホルダーが徐々に主体的にその実践活動に携わる状況につなげていく活動も実施します。

5. 提案の受付方法

<応募方法>

「府省共通研究開発管理システム（e-Rad）」により受け付けます。

府省共通研究開発管理システム（e-Rad）ポータルサイト

URL <https://www.e-rad.go.jp/>

<公募要領、選考スケジュールなど>

詳細および最新情報は以下のウェブページを参照してください。

URL https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/proposal_2025.html

<募集説明会>

R I S T E X主催の募集説明会において本領域の説明をします。

日時：令和7年4月24日（木）午後2時～午後4時

方法：オンライン（Zoomウェビナー）

※参加登録などの詳細は、上記<公募要領、選考スケジュールなど>のURLを参照ください。

なお、説明会においては、本領域に加え、同時に公募する以下3つの研究開発プログラムについても説明を実施します。

- ・ 科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（E L S I）への包括的実践研究開発プログラム
- ・ S D G sの達成に向けた共創的研究開発プログラム（シナリオ創出フェーズ・ソリューション創出フェーズ）
- ・ S D G sの達成に向けた共創的研究開発プログラム（情報社会における社会的側面からのトラスト形成）

6. お問い合わせ先

科学技術振興機構 社会技術研究開発センター 企画運営室

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

長田 直樹（ナガタ ナオキ）

Tel : 03-5214-0133 Fax : 03-5214-0140

E-mail : [boshu-care\[at\]jst.go.jp](mailto:boshu-care[at]jst.go.jp)